



# 城陽エコパートナー通信

Vol. 4

発行日：平成 16 年(2004 年)11 月 16 日 編集・発行：城陽環境パートナーシップ会議  
(事務局) Tel (56)4061 Fax (56)3999

## 『第3回城陽市環境フォーラム』を開催しました

去る9月25日(土)に「第3回城陽市環境フォーラム」を文化パーク城陽で開催しました。当日は、清水國明さんを講師に迎えての講演会や市民の皆さんによるパネルディスカッション、環境団体によるパネル展示を行い、約300人の参加者で賑わいました。



### 清水國明さん 『楽』を求める社会に警鐘

1973年に原田伸郎さんと「あのねのね」を結成し、一世を風靡したタレントの清水國明さんに、「自然と共に生きる新エネルギー時代」をテーマにご講演をいただきました。

現在はタレント活動も一休みし、平成7年には「自然暮らしの会」を設立され、子供たちにアウトドアを教えるなどの自然体験イベントや、講演活動に多忙な毎日を送っておられます。そういった自身の体験から「人生は『楽』を求めず、『楽しさ』を求める生き方が大切である」とお話をされました。また、「すべてに恵まれた現代の生活は『楽』である。しかし、そこには苦勞することによってしか味わえない『楽しさ』はない」など快適さを求める現代社会に警鐘を鳴らしました。

この講演の中で、清水國明さんが訴えたかったこと、それは便利になった現代において人間が楽をすればするほど、地球環境に対して負荷をかけているといったことではないでしょうか？ 今回の講演で「無駄を積み重ねて今の楽な世の中を維持している」ことを、当日お集まりいただいた市民の方々に強く印象付けられたと感じましたし、これからの我々の生活様式に一石を投じられたと確信いたしました。

### パネルディスカッションで意見交換

今回のパネルディスカッションでは、市内で実際に環境活動に取り組んでおられる団体の方々に参加をいただき、各団体の活動に関する報告や、今後市内での環境活動を活性化するためのあり方についての議論などを行いました。



参加者からの報告では、具体的な各団体の取り組みとその成果、課題など、まさしく現場の生の声が届けられました。さらに、その後の議論では、市内における活動を盛んにしていくためには、団体同士の連携を深めていくことが重要ではないか、地域全体で共通した取り組みを行うべきでは、といった議論が展開されました。

そして最後に、今後に向けて、パートナーシップ会議が、地域の環境活動の担い手が集うテーブルとしての役割を果たすことが期待されることを全体で確認し、ディスカッションを終えました。ディスカッションを通じて、市内においてこれほど多様な活動が展開されていることが明らかになったことは、今回の大きな成果であると思います。



## パネル展示と体験コーナー

地階の市民プラザでは、市内14団体の地球温暖化防止に向けての展示も行なわれ、各団体の活動内容がわかりやすく展示されていたり、実験コーナーもあり、子供にも楽しく省エネが理解できるように工夫されていました。

その中で、電気乾燥式生ゴミ処理機も展示されていましたが、モニター報告によると、生ゴミ減量の効果は大きく、夏場でも腐らないので、週1回の回収日であっても大丈夫な位の量しか出ないとのことでした。ごみの量は少なくなるし肥料にもなるので、多くの人に使ってもらえれば、城陽市からごみの減量化が推進できるのではないのでしょうか。

また、廃食油の回収を行なわれている団体もありました。廃食油は、ごみ回収に出せば温暖化の原因になりますが、回収に出せば処理をしてCO<sub>2</sub>の少ないディーゼル燃料となり、温暖化防止に役立つ事になります。

その他には、太陽光発電・風力発電等、未来のエネルギーと考えていたものが、私たちの身近にあることもわかりました。

まず、私たちができる事から始めれば、今よりもずっと住みよい環境になるでしょう。



## エコプランターと花いっぱい運動

「城陽環境パートナーシップ会議」における平成16年度事業の一つに「花いっぱい運動」の展開を計画しています。

その第一歩として、今回、会員のアイデアによる環境にやさしいエコプランターを作製することといたしました。

そして、出来上がったプランターは、駅や公園などの公共施設のなかに置かせて戴きます。製作するプランターは廃材と伐採された竹を主材料としており、使用材料のほとんどが最終的に土に戻るというものです。今回の環境フォーラムや市役所のロビーで見本を展示し、多くの方々にも見ていただきました。

今後は、「エコプランターの作製教室」などの開催にて、プランターを作成するとともに、自分たちの生活の中に花の輪が広がるような取り組みを考えています。市域全体に花を増やすこの運動に会員の皆さんの参加により、緑化促進を市民の皆様と共に考え行動し、地域との交流を深めるなかで緑豊かな街の実現と自然の大切さを後世に受け継ぐことを目標にしていきたいと思えます。





## さあ始めよう！「環境家計簿」

大量生産と大量消費を繰り返す私たちの生活が、地球環境に大きな負担を与え、地球が悲鳴をあげ始めました。今、地球に異変が起きています。

多量のエネルギーの放出により、地球の温暖化に拍車がかかりました。私たちはかつてない暑い夏を経験しました。また、今年は恐ろしい数の台風が日本を襲いました。これも地球の温暖化によるものとする考えもあります。海水温度の上昇により、水蒸気を好物とする台風が大量の水蒸気を取り込み、ますますパワーアップし、勢力を保ったままで日本に上陸するという説です。

この現実から目をそむけないで、美しい地球を次世代に残すために何かをしてみませんか。日常生活において、電気・ガス・水道等を節約するだけで、地球環境に大きな貢献をする事を忘れないでください。身近に取り組んでいただく方法として、環境家計簿をお勧めします。

電気の使用量等を記入し、決められた排出係数を掛けるだけで、地球温暖化を引き起こすCO<sub>2</sub>の排出量を簡単に算出することができます。楽しみながら環境家計簿をつけ続けていただくと、きっとエコ生活は経済的にも得をする事に気付かれると思います。無駄を無くす生活が、地球にも家計にも貢献する、一石二鳥の効果を生み出す環境家計簿、今日からつけ始めてみませんか。一人ぐらいと思わず、一人でもと言う気持ちが、きっと地球を変えられると思います。環境家計簿は環境における虹の架け橋です。

環境家計簿は事務局で配布しています。

## 「地球の学校・第1回」を開催しました

この講座は、京都府地球温暖化防止活動推進センターとの共催によるもので、第1回目は「どうなるの？この地球」をテーマとして、11月14日（日）に文化パーク内の寺田コミセンで開催、会員ら25人が参加しました。

まず、同センターの木原浩貴氏がDVDによる映像で地球温暖化の現状や原因について詳しく解説。ヒマラヤ山脈の山岳氷河の後退や海面水位の上昇により国土が沈みつつある南太平洋のツバルなどショッキングな映像には、参加者から驚きの声があがりました。

引き続き、「ひのでやエコライフ研究所」の鈴木靖文氏が、「家庭でできる省エネ」について講演。日常生活に伴う環境負荷の大きさや、省エネの効果についてクイズ形式で楽しく分かりやすく説明され、待機電力による電気代が年間1万円にもなるなど、省エネは、環境だけでなく家計面でも大きなメリットがあることを再認識しました。

城陽エコパートナーでは、今回の学習会が「環境家計簿」の普及に繋がることを期待しています。



## 活動紹介

### 『NPO法人 環境ヒューマンネットワーク城南』 ～ 青谷の秘められた地景(鴨谷の滝)の写真展とシンポジウムを開催～



(代表者) 半田忠雄

(連絡先) TEL: 56-3817

城陽市に残る秘境「鴨谷の滝」の写真展を、去る10月8日～10日の3日間、城陽市歴史民俗資料館「特別展示室」で開催しました。

青谷の深谷に存在する多くの滝の中から24滝を紹介するもので、「滝のある地景」「草花と生きものたちの情景」「キノコのある風景」の3部にわたり174点の写真を展示しました。



あわせて、10月9日に「地域の新たな観光像を求めて」をテーマにしたシンポジウムを開催し、約50人が参加、専門家の基調講演やゲストとして参加されたボランティア活動家の報告をベースに、観光と環境保全について熱心に討議を重ねました。これらは、NPO法人「環境ヒューマンネットワーク城南」「五里のふるさと観光デザイン研究会」が主

催し、NPO法人「エコー城陽」及びNPO法人「映像メディア」の協賛により行ったものです。

このコーナーでは、皆さんの『環境保全に向けた活動』や『省エネ・リサイクルのアイデア』などをご紹介します。掲載を希望される方は、事務局までご連絡ください。

## ご参加ください

### 『地球の学校・エコバスツアー』



～ 環境施設の見学と省エネクイズ、ワークショップによる意見交換などを行います～

#### 第2回「風と菜の花のエネルギーを訪ねて」

日時：12月4日(土) 13:00～17:00

行き先：「夢風車」(草津市)

・風力発電施設

「菜の花プロジェクト」(愛東町)

・廃食油のリサイクル施設

集合：城陽市役所前(12:30)

参加費：無料

申込み：11月29日(月)までに事務局へ電話で

#### 第3回「環境家計簿とごみ問題」

日時：1月下旬 13:00～17:00

行き先：「エコ・ポート長谷山」(城陽市)

(予定) ・リサイクル施設・工房

「京エコロジーセンター」(京都市)

・京都市環境保全活動センター

詳細は、12月以降に事務局へお問い合わせください。

いずれも市のバスを利用します。

どなたでも参加できます。

応募者多数の場合は会員を優先して抽選で決定します。